

あとがき

本書は国際日本文化研究センターの共同研究会「日本文化の深層と沖縄」（代表、梅原猛のち山折哲雄。幹事、上垣外憲一、長田俊樹）の成果報告論集である。

本共同研究会の趣旨は、日本の基層文化の特性を沖縄文化との関連において明らかにするところにあった。宗教面におけるニライカナイ信仰や村々の年中の祭祀、ユタの祈禱などが日本人の信仰とどのような関連性をもつのか。沖縄の農耕文化は日本の農耕文化の形成と発展に対してどのような影響を及ぼしているのか。琉球語と古代日本語とはどのような関係にあるのか。これら各種分野における比較対照を積み重ねることによって、日本文化と沖縄文化の相互関係の実態を解明していくことを課題としたのである。

本研究会は平成五年五月に発足し、それより同七年九月まで足かけ三ヶ年にわたって継続され、研究会の開催回数は計十一回を数え、報告本数は延べ二七に及んだ。その詳細は左の通りである。

【平成五年（一九九三）】

第一回 五月三十一日

研究会発足にあたって

日本農作の源流―南島經由説とマレー型稲作論から―

奄美の狩猟採集文化

中西 進

田中 耕司

田畑 千秋

第二回 七月一九日

久高島の神々家・元家・殿・ウタキ・ニラーハラー

宮古島西原のユークイについて

沖繩八重山の祭祀歌謡の形態

第三回 九月六日

先史時代の沖繩における適応過程についての作業仮説

琉球方言における調和構造

第四回 十一月一日

考古資料からみた南島文化の諸様相

― 沖繩とその周辺地域間の文物交流について ―

見える神・見えぬ神・見てはならぬ神

【平成六年（一九九四）】

第五回 一月一〇日

琉球王国祭祀儀礼の空間・間得大君御新下り儀礼と

地方年中祭祀儀礼に見る儀礼原則

近世琉球の王府儀礼の中の「音」をめぐって

第六回 五月一六日

思想信仰としての南船北馬

現代沖繩の墓地風水

比嘉 康雄

上原 孝三

波照間永吉

高宮 広土

内間 直仁

上村 俊雄

皆川 隆一

伊従 勉

津田 順子

福永 光司

渡邊 欣雄

第七回 七月四日

蝦夷と琉球を結ぶ文化交流
琉球文化圏の墓制と祖霊祭

大塚 和義
下野 敏見

第八回 九月二十六日

ヒヨリミビトの系譜―王権論の基礎―
近世琉球における海上交通の状況

宮田 登

高良 倉吉

第九回 十一月二日

沖繩の祖霊信仰の若干の問題

赤嶺 政信

【平成七年（一九九五）】

第一〇回 六月二日

美女に化ける豚
稲作文化考―伝播論と普遍論―

田畑 千秋
長田 俊樹

六月三日

共同討議「久高島の祭祀をめぐって」

発表1 「琉球の年中祭祀祭場の仮設性について
従来の祭場論の批判的検討：久高島の祭場を中心に」

発表2 「久高島の祭祀の構造」

伊従 勉
比嘉 康雄

第二一回 九月二日

アイヌの火の神について
日本の火の神信仰―特に南西諸島を中心として―

山田 孝子
下野 敏見

九月二日

琉球方言における可能表現

タンゴル巫の世襲性について―韓国と沖縄を中心に―

内間 直仁

崔 吉城

なお本共同研究会は、日文研の特定研究「環太平洋圏における日本文化の成立とその展開」と連動する形で開催されたものでもある。この特定研究は、日本における文化形成を環太平洋圏という広い地域的視野から研究することを課題としているが、本共同研究では、この特定研究の主要な研究対象の一つである琉球―沖縄文化を特に取り上げ、その諸相を掘り下げて分析することによって、環太平洋圏という視野の広がりの中で日本文化の形成に及ぼしたその意義を明らかにしていくことを目指したのである。

その意味からも、別途に刊行が予定されている特定研究関連シンポジウムの報告論集を、本論集とあわせ御覧いただければ幸いに存する次第である。

平成八（一九九六）年一〇月一日

共同研究会「日本文化の深層と沖縄」

代表 山 折 哲 雄